

(別紙5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 20 年 12 月 12 日
調査実施の時間	開始 9 時 30 分 ～ 終了 2 時 30 分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム万世 (福島県)
-------------------	----------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>熊谷まゆみ</u>
	氏名 <u>大野恒夫</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u>
	氏名 <u>柳内知子</u> ヒアリングを行った職員数 (1) 人

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	0791400013
法人名	株式会社マインド
事業所名	グループホーム万世
所在地	福島県本宮市本宮字万世137-5 (電話) 0243-34-5090
評価機関名	会津医療生活協同組合
所在地	会津若松市東千石1丁目2-13
訪問調査日	平成20年12月12日

【情報提供票より】 (20年 10月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤人 11, 非常勤 1人, 常勤換算 4.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87.5歳	最低	81歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 渡辺クリニック 大道寺歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

6月に開所されまだ半年のホームであるが利用者や職員が日々の暮らしになじんでいる様子が感じられた。日当たりのよさや、リビングのガラス越しに見える田んぼは四季の移ろいが目の当たりにすることができ居住性のよいホームになっている。職員は落ち着いたトーンでやりがいと楽しさが伝わってくる対応をしていた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者・管理者・スタッフが評価の意義を踏まえて全員が評価に参加し、自己評価を通して課題を話し合っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	地域の婦人会やボランティアの代表も運営推進会議のメンバーになっており、そば打ちや読書会などのボランティア活動の提案も行われている。認知症や介護について地域の相談も寄せらるなど地域とホームをつなぐ役割を果たしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会などで出された要望や意見を利用者別に管理日誌に書き込み、職員で共有できるようになっていて介護計画や運営に生かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	大人のボランティアだけでなく毎月児童館の子供たちが遊びにきたり中学校の職業体験を受け入れたりするなど地域の中でホームが活用されている。避難訓練に地域の人の参加もあり地域に溶け込んだ運営がなされている。

2. 調 査 報 告 書

主任調査員氏名 熊谷まゆみ

／ 同行調査員氏名 大野恒夫

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設に向けて職員で地域密着型としての役割について話し合い、理念の一つに「地域の方々へ積極的にホームの存在を働きかけ交流の場をつくる」がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に唱和して確認している。毎月の職員会議でも理念にそったケアができているか振り返りの場をつくっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の芋煮会などの催し物に参加している。児童館の子供たちや地元の中学校の職業体験受け入れなど大人だけでなく子供たちとの交流も行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義について理解しており、それぞれが評価したものをまとめ上げ、全員で課題を話し合っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	婦人会やボランティアの代表なども委員になり定期的に開催されている。そば打ちやお話会などホームの活動の提案だけでなく介護についての相談などもできる場所になっている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会回数が多くすべての利用者の家族が毎月1回の面会があり生活の様子を報告している。家族会もあり活発な意見交換が行われている。毎月写真いりのホーム便りや金銭管理報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理日誌は要望や意見があったら、そのつど利用者ごとに記入できるようになっていて、職員が一覧し全体化できるようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所2ヶ月で体調不良で退職者が一人あったがそれ以降はない。法人の方針として利用者や家族との信頼関係を重視するために異動は抑えるようにしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の社内研修に参加している。外部研修には職員のレベルに合わせて交代で参加している。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム連絡会に入会しており連絡会主催の交流会に職員や利用者も参加している。県中方部の管理者会議や研修会にも参加している。</p>		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は畑仕事や料理、お手玉づくりなど祖母のように母のように教えてもらう場面が多く日常的に支えあう関係になっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント せん					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式様式の活用の仕方をスタッフに周知している。様式に家族が丁寧に生活歴を記入している。気付きや情報も漸次書き込まれていてケアに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で家族や本人からやりたい事や聞き取ったものを原案にし、職員全体で話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行いケアカンファレンスで話し合っている。状態に変化があったときは計画に書き加え確認しあっている。面会回数の少ない利用者の家族との話し合いも意識して行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている (小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医を受診している。家族対応の受診の際は本人の状態をメモして家族に渡し受診後の報告も受けている。		
19	47	<input type="checkbox"/> 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者と家族に法人内の対応方針に基づいて説明し、同意を得ている。具体的な対応が必要になった場合は主治医とも相談しながら実施する予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<input type="checkbox"/> プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような対応は見られなかった。排泄のケア、失禁したときのケアなどには特に気をつけている。記録などは職員以外の目に触れないところにおかれている。		
21	52	<input type="checkbox"/> 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	遅寝、遅起き、外出など利用者それぞれのペースや希望に沿って生活できるよう支援している。意思表示が困難な利用者についても気遣いしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養管理されているメニューをベースに利用者の希望や好みの食材も取り入れ食事の準備から後かたづけまで利用者と一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯が午前中だけに組まれていて、利用者が入浴できるのは午前中だけである。	○	入浴の時間をフリーにし利用者の希望する時間に入浴できるようにしてほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の生活歴や趣味を把握し、調理や後片付け、花や畑の手入れ、掃除などの役割がある。編み物や縫い物、歌などの楽しみもさまざま支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物、散歩、通いなれた理容所、自宅訪問など一人ひとりの希望にあわせて支援している。菊人形を見に行ったりのドライブも支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない支援をしている。不穏な利用者には24時間シートを使い行動を把握するなどきめ細かい見守りをしている。ドアの開閉時は職員のナースコールにサインが来るようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域に避難訓練の案内をし消防署や近所の人々の参加を得て訓練をしている。災害時の食料などの備蓄についても法人で話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には栄養管理されている献立を提供している。水分や摂取量などのチェックもしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは日当たりがよく開放的で快適であった。リビングや風呂場は床暖になっていて温度管理がされている。加湿器も設置されていた。グリーンや飾りつけもうるさくなく落ち着いた空間であった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やちゃぶ台などなじみのものが持ち込まれ、家族の写真や鉢植えをおくなど各人で居心地のよい居室になっていた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

グループホーム 万世

記入担当者名 管理者 柳内 知子

評価結果に対する事業所の意見

なし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。